

産業医の現状と今後の展開

日本では、臨床医も産業医の役割を果たすことが求められる。そこで、臨床医をしながら産業医を兼務する場合に、最低限必要な知識と果たすべき役割について知る。そのために現在の日本の産業医制度について文献検索を中心に調査を行った。また、いくつかの企業を訪問することで実際の産業医の活動を体験した。さらに欧米やアジアとの比較から、日本の問題点について考えた。

日本では産業保健サービスを受けている労働者は 50%に満たない。さらにサービスを受けている労働者の産業医活動に対する満足度は低い。これには産業医が十分な権限を持たず、企業の意向に沿わない独立した活動が行えないという問題がある。実際に企業を訪問すると、労働者から職場巡視とメンタルヘルスケアが十分に行われていないという声が聞かれた。また、産業医の肩書きを利用した積極的な活動を希望する声もあった。

これらに対する対策として、欧米を見本に、産業医が強い独立性と中立性を保持するための確立した法整備が考えられる。また法整備を進めると同時に、産業医自身の意識を変えていく取り組みが必要である。具体的には、まず労働者の仕事内容を理解し密接に関わっていくことで、現場にあった活動を行うことが求められる。さらにすぐに実践できる対策として、アジアで行われているワイズ方式を紹介した。